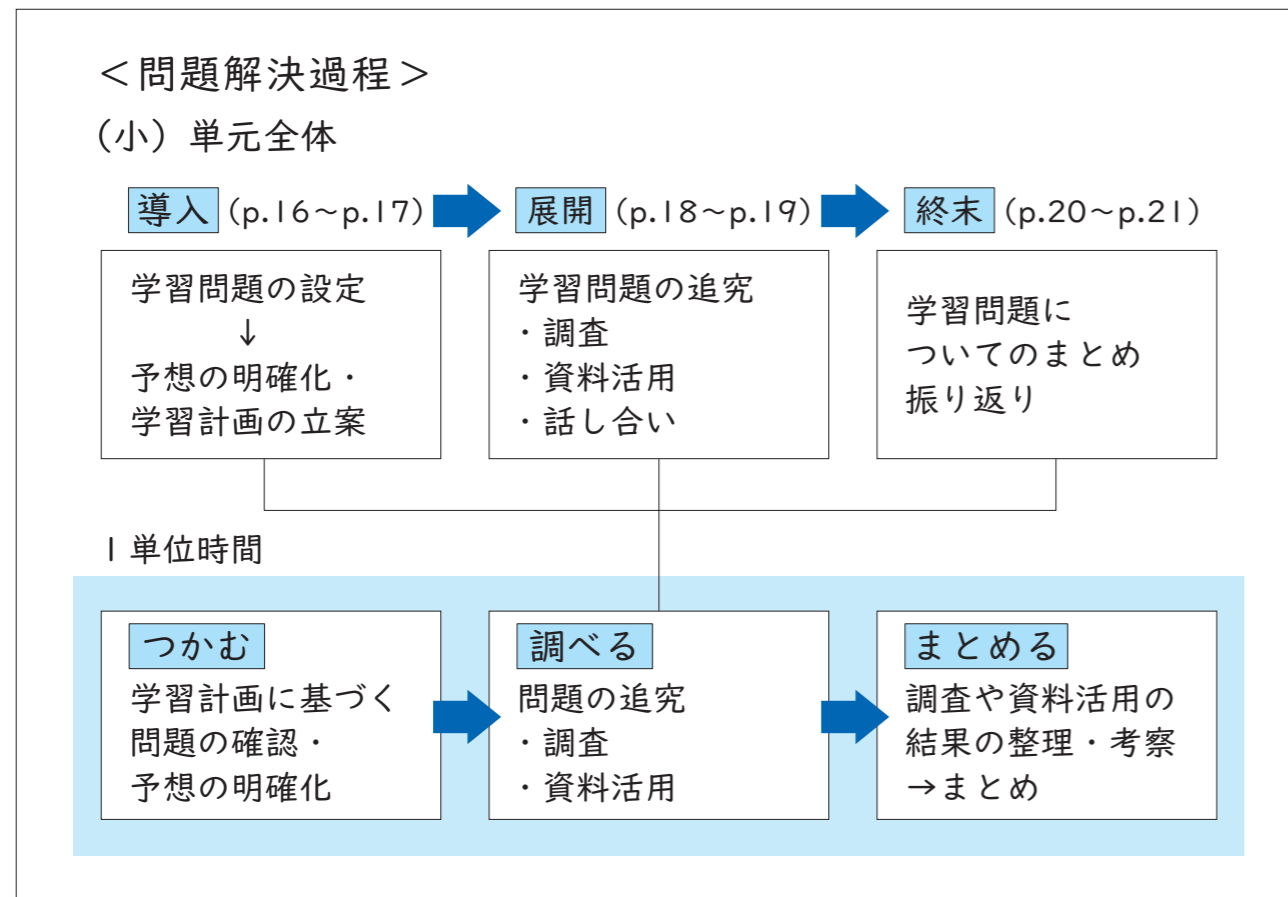


社会の教科書の使い方

1. 「問題解決過程」を意識しましょうー教科書の全体の構成

社会科は、「問題解決過程」を踏まえて学習が進められています。

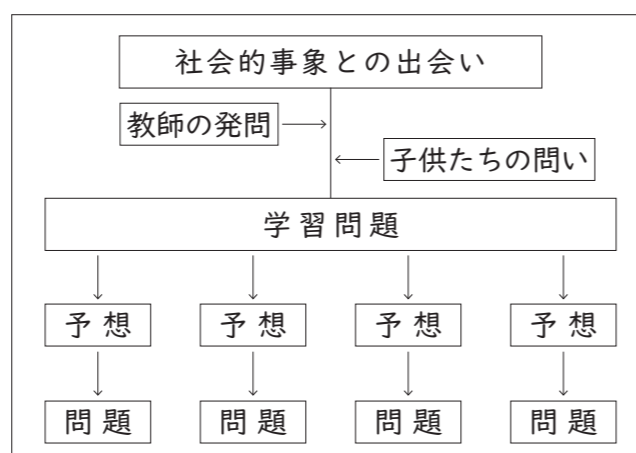
「問題解決過程」とは、(1) (小) 単元 (学習のまとまり) が「導入」→「展開」→「終末」というプロセスを踏まえて進められること、と、(2) 1 単位時間が「つかむ」→「調べる」→「まとめる」というプロセスを踏まえて進められることです。換言すれば、導入時につかんだ「学習問題」(これを解決すると得られる(小) 単元の解答に到達する、という問い) を調べ、まとめていくことになります。教科書は、以下のように構成されています。



2. 教科書を活用する上で特にポイントとなるところ

(1) 学習問題をつかみ、予想を立てるためのポイント (p.16~p.17)

導入時に、子供たちが教科書の資料を活用したり話し合ったりしながら、教師の発問によって、あるいは子供たちがもった問いを生かし、学習問題を明らかにします。子供の問いは教師が想定したよりも広がりすぎる場合もありますので、1 単位時間のねらいを確認したり、資料を読み取る際に見方・考え方を示したりすること (例: ★) がポイントになります。また、教科書に示された子供の発言も活用できます (例: ★)。



学習問題ができれば、子供たちが予想をする活動を組み入れます (例: ★)。問題解決過程を踏まえた学習の特色の一つは、「学習問題に対する予想」を「追究する(調べる)」ことであるからです。このことは、「学習計画」に示されている場合があります。また、予想がいくつかにまとめられて「展開」の段階に位置付けられる「1 単位時間の問題」になることがあります (例: ★, ★)。

以上のことが教科書に盛り込まれていることを捉えておきましょう。

(2) 資料を活用させるためのポイント (例: p.18~p.19)

社会科の教科書は、多くの場合 1 単位時間で 2P (1 見開き) を扱うようになっています。ここには、複数の資料が掲載されています (例: ★, ★, ★, ★, ★)。先生方の中には「全てを扱うことが不可欠」と考えて子供たちに調べさせたり先生が解説したりすることがあります。しかし、必ずしも全てを扱う必要はありません。

教材研究をする際に、資料一つ一つを分析し、それぞれがどのように活用できるかを明らかにした上で、

- ア 全てを活用するか、どれを活用するかを決める
- イ 活用する順序を決める
- ウ 資料の読み取り方を明らかにする (社会的事象の見方・考え方の働かせ方)

などを明らかにします。

特に、ウについては資料の効果的な活用の仕方として示されている場合があります。「何をどのように読み取るのか」を確認していくとよいでしょう (例: ★)。

(3) 「本文」を活用させるためのポイント

先生方の中には、「教科書の本文は学習問題の答え」と考える場合があり、本文をあえて読ませないことがあります。しかし、教科書の本文には

- ア 子供たちが考えるための例 (p.19 の ★)
- イ 調べる活動のヒント (p.18 の ★)
- ウ 多様な見方や考え方をするための手立て (p.18 の ★)

などが示されており、学習活動を一層充実させるための一助になります。(2) の資料と併せて効果的な活用ができるようになっています。

(4) 深い学びに向けた「終末(まとめる)」のポイント (p.20~p.21)

特に、「終末」の段階で、展開の段階での調べたことをまとめる、換言すれば、学習問題に対する解答をしていく活動はとても難しい、とされています。この点について、教科書は、それまでの学習を振り返りながら、調べたことを比べて共通点を見出させたり、関連させたりまとめたりする活動を促す記述をしています (例: ★, ★)。また、板書やノートなどの作品を例示しながら、子供たちに考える手立てを示しています (例: ★)。子供たちの発言は、互いを認めたり、意見を付け足したりするようになっています。これらを有効に活用しながら子供たちが学習活動を展開できるようにします。

(5) 社会的事象の見方・考え方を働かせるポイント (p.21 の ★)

子供たちが、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察するなどの際の「見方」や「考え方」を働かせる大切さが指摘されています。教科書には、キャラクターの吹き出しなどで「見方」や「考え方」を示し、子供たちが考えやすいようにする工夫があります。

導入部分の活用のしかた

1 写真の活用

ここでは、子供たちの生活場面を取り上げながら、「水道がどこにつながっているのか」を予想させるためのきっかけとして活用します。

学校の中で、自分たちが水を使っている場面を確認し、日々の生活に欠かせないものであることに気づかせることが大切です。

2 「わたしたちの使う水はどこから」本文の活用

特に「つかむ」段階での本文は、学習問題につながる表現が出てきます。

例えば、「水道管ものびていた」「学校の水は、森やダム、川を通過して、浄水場から来ているよ」などです。子供たちが考えづらかったり、考えを確認したりする際、効果的に活用できます。

また、「どの資料と子供たちの発言がつながっているか」も、確認することで、根拠を示しながら考えることの大切さを示すことができます。

3 イラスト資料の活用

これは、資料①・②を読み取った後、めあてにある「どこから」に着目させるために活用します。

4 つかむの活用

(本時のめあての確認)

この1単位時間の学習のめあてを確認し、子供たちに見通しをもたせます。

5 まなびのポイントの活用

子供たちの学習の方向性を明確にするために活用します。ここでは、資料3の後に活用するとよいでしょう。

※ 数字は、内容を活用していく順番(指導の流れ)の例を示しています。

1 学校のしょうこう口にある水道のじゃ口

2 プール横の水道メーター

3 学校のしょうこう口にある水道のじゃ口

4 つかむ

わたしたちが使う水はどこから送られてくるのかを考え、学習問題をつくりましょう。

わたしたちの使う水はどこから

まゆさんたちは、学校の中で、水に関係するものは何かさがしてみました。

「学校の中のじゃ口から出る水は、水道管を通っているんだね。」

「地下にも水道管があって、水道メーターもあったよ。」

まゆさんたちは、学校で使う水がどこから来るのか、資料を使って調べました。

「学校で使う水は、森やダム、川を通過して、浄水場から来ているよ。」

「川の水は、どのようにして水道のじゃ口からでてくるきれいな水になるのかな。」

わたしたちの生活に欠かせない水は、どこでどのようにきれいにされて、送られてくるのでしょうか。

5 まなびのポイント

学校の水がどこから送られてくるのか調べてみよう。

学習問題をつくり、学習計画を立てよう。

6 学習問題

学習問題について予想しよう

- 浄水場などのしせつでは、薬を使って水をきれいにしている。
- ダムで水をためて、水道の水に使っている。
- 使った水をしせつに集めて、もう一度きれいにしている。

学習問題を立てよう

調べること

- 水は、どこでどのようにきれいにされているのか。
- 水をきれいにするしせつは、いつからあるのか。
- わたしたちが使う水は、森やダムからどのように送られてくるのか。
- 使われた水は、どうなるのか。

調べ方

- 水をきれいにするところへ見学に行く。
- 水道局のホームページを調べる。
- 地図帳で水が、どこから流れ来るかを調べる。

まとめ方

- 水が送られてくる流れを図にまとめる。

7 学習問題について予想しようの活用

「学習計画を立てよう」にある「調べること」を明らかにするために、特に資料④を活用しながら予想を明らかにします。

8 イラスト資料の活用

ここでは、学習問題の予想をするために活用します。「ダム」「浄水場」「市街地」といった言葉を大切にしながら、「どのように送られてくるのか」を予想させます。

9 調べることの活用

予想を基にして、「何を調べる」のかを明らかにします。

10 調べ方の活用

今までの学習経験も生かしながら、調べる方法を確認していきます。

11 まとめ方の活用

様々なまとめ方がありますが、例えば教科書にある作品を紹介しながらイメージをもたせることも効果的です。

キャラクターの活用

キャラクターの発言についている記号に着目して子供たちにも考えさせてみましょう。

- 「！」…気づいたこと
- 「？」…疑問
- 「？」…予想など

6 学習問題を立てること

小単元で何を調べるのかを明らかにします。資料1～3や本文、また「まなびのポイント」を踏まえながらここにつなげていきます。

展開部分の活用のしかた

1 地図の活用

まず、**地図記号を確認**し、どのようなところが「**何**」に**利用されている土地**にあるのかを確認させましょう。

2 調べるの活用

1単位時間の学習の始めに、「**ねらい**」を確認するために活用します。

「**どのようなところ**」を具体的に説明するには、「**何**」が**わかればよいのか**を、本文も読みながら確認しましょう。(まずは、地形と気候です。)

3 学び方・調べ方の活用

(土地利用図の読み取り方)

地図の活用は社会科では特に重要な技能の一つです。学習経験があまりない、と考えられる段階なので、このコーナーを活用しながら右の土地利用図を読み取っていきます。子供たち全員と共に活動していきながら、確実に技能を伸ばしていくとよいでしょう。

※まとめの際に「まなびのポイント」とつなげて指導すると効果的です。

4 本文の活用

1の「**ねらい**」を確認する際に、**本文のキーワードを確認**することで、「**何**」がわかれば、**米作りがさかんな理由**を具体的に説明できるかを考えさせましょう。

5 グラフの活用

ここでは、耕地面積の内訳を調べます。「**全国**」と「**庄内平野**」の割合を調べるとともに、**全国と「比べて」庄内平野はどうだろう**、と問いながら、**庄内平野の土地利用の特色**を明らかにします。

「**比べる**」は社会科では、**とても重要な考え方**です。

2 調べる

米作りのさかんな庄内平野は、どのようなところなのだろう。

3 学び方・調べ方

土地利用図の読み取り方

3 確かめる

① 表題を確かめる。
② 凡例にある地図記号や色分け

3 見つける

① 山や川の位置
② 田や畑の広がり
③ 鉄道や道路の位置

3 考える

● ページの空中写真や地図帳なども見て、関連づけていえることがないか考える。

① 庄内平野の土地の使われ方

4 庄内平野のようす

まゆさんたちは、庄内平野の地形や気候について、資料で調べることにしました。

地図に田の地図記号が多いし、空中写真では平らな土地に水田が広がっているのだから、米作りに向いた土地だと思うわ。

山地から最上川、赤川などの川が流れているから、水が豊かなところじゃないかな。

5

そのほか 7.5% (2020年)

水田 92.5% (農業センサス)

[庄内平野]

そのほか 45.6% (2021年)

水田 86.7% (作物統計調査)

[日本全体]

② 耕地のうちの水田がしめるわりあい

※ **★** 数字は、内容を活用していく順番(指導の流れ)の例を示しています。

6

③ 酒田市と気仙沼市の月別日照時間 (1991年から2020年までの平均)
④ 酒田市と気仙沼市の月別降水量 (1991年から2020年までの平均)
(気象庁の気象データより)

7

農家の人の話

庄内平野は山形県の北西部に位置し、最上川や赤川などの大きな川が流れています。鳥海山や月山などの高い山からなる出羽山地から流れてくるこれらの川の水には、栄養分がたくさん含まれています。

ここは夏は日照時間が長く、日光が十分に当たるので、じょうぶないねが育ちます。また、昼と夜の気温の差が大きいので、おいしい米を作ることができます。

また、夏の南東季節風は、太平洋から山地をこえ、あたたかくかわいた風となってふいてくるので、気温を高くするとともに、ぬれたいねをかわかし、病気を防ぐはたらきをしてくれています。冬は、北西季節風がふき、多くの雪がふります。この雪は、田の土の中の病気を引きおこすきを弱らせるはたらきをしてくれます。

8

⑥ 8月ごろの庄内平野のようす

⑦ 2月ごろの庄内平野のようす

9 まなびのポイント

地形や気候からみて、なぜ、庄内平野で米作りがさかんといえるのだろう。これまで調べてきたことをもとに自分の考えを発表しよう。

10

まなびのポイント

(社会的事象の見方・考え方)

ここでは、どのような観点をもって考えたらよいか、を示してあります。

「**地形**」「**気候**」といった**自然環境に着目することを確認**すると子供たちが適切に考えやすくなります。

8 図と写真の活用

農家の人の話をイメージ化した「**風向きと降水の図**」「**夏・冬の水田の写真**」です。**話の内容と図を照らし合わせたり、図や写真から何がわかるか**を発表させ、気候との関係をイメージ化させてみましょう。

9 まなびのポイント

(社会的事象の見方・考え方)

ここでは、どのような観点をもって考えたらよいか、を示してあります。

「**地形**」「**気候**」といった**自然環境に着目することを確認**すると子供たちが適切に考えやすくなります。

10 本文の活用

ここは、子供たちの**振り返りになっています**。本時の「まとめ」の際に参考にできます。

確認する内容は「何か」をチェックしたり、(ここでは、**気候や土地などの自然環境**)**残された課題**は何かを**確認したり**することが大切です。

6 グラフ等の活用

(グラフの読み取り方)

※本文と対応を確認しましょう。

ここでは、資料③を④と丁寧に読み取りながら、**酒田市(庄内平野)の日照時間、平均気温の特色を確認**します。さらに、比較対象である**気仙沼市とは「緯度」があまり変わらない**ところから、**庄内平野の自然条件の特色を明らかに**します。**複数の資料を「関連づけ**ていくことも社会科の考え方の大切な点です。

7 本文の活用

これは、**子供たちが土地利用図や統計資料などから読み取ったことを確認**しています。

ここだけ読めば本時の内容が分かってしまう、という疑問もありますが、**学習の終末に活用**し、読み取ったことを**確実に押さえていけば**、とても有効です。

8 図と写真の活用

農家の人の話をイメージ化した「**風向きと降水の図**」「**夏・冬の水田の写真**」です。**話の内容と図を照らし合わせたり、図や写真から何がわかるか**を発表させ、気候との関係をイメージ化させてみましょう。

終末（まとめる）部分の活用のしかた

1 まとめるの活用 (学習問題の確認)

「まとめる」段階では、学習問題に対して子供たちが考えを明らかにする、という活動を行います。改めて学習問題を確認することが重要です。

キーワードの活用

子供たちが学習問題に対するまとめを行う際に、大切にしたいことばです。これを用いると子供たちは考えやすくなります。

2 本文の活用

「学級全体」で「調べたことを振り返り」ながら「発表する」、「対話的な学び」の一例として考えてみましょう。

まとめる際に「このように作ってみよう」と例示したり、まとめの活動の途中で、「振り返りで足りない部分はないかな」と確認したりと活用を工夫してみましょう。

3 本時のめあての確認 (板書コーナーの活用)

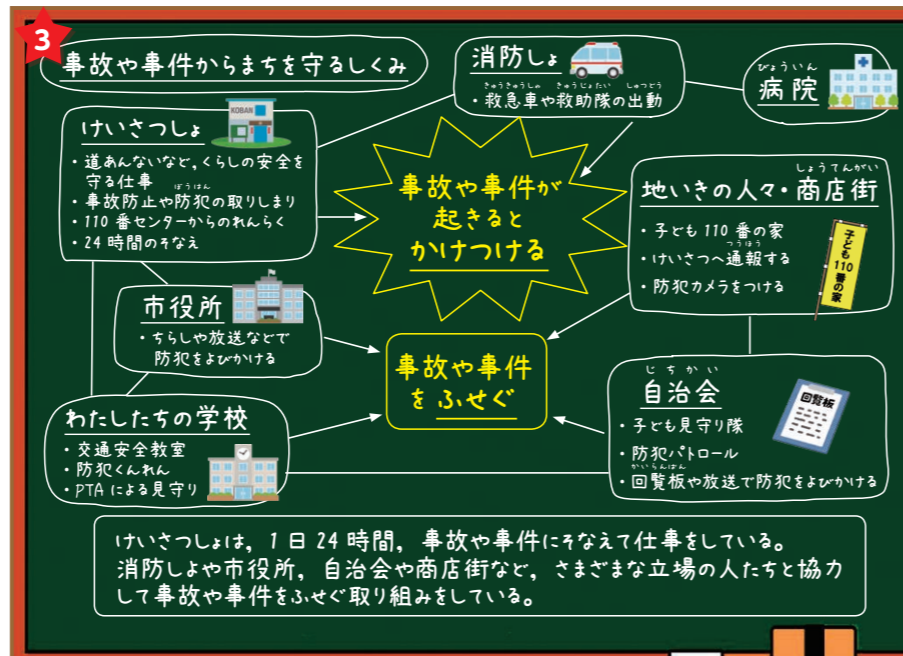
これは、板書の一例です。ここに示された内容は、今まで調べてきたことを示しています。

一つ一つの内容を確認するとともに、つながりや関係を考えるように促していきます。

3 板書コーナーの活用

一つ一つの内容を確認していくと、下の囲み（結論）に至るようになっていきます。

けいさつしょは、1日24時間、事故や事件にそなえて仕事をしている。消防しよや市役所、自治会や商店街など、さまざまな立場の人たちと協力して事故や事件をふせぐ取り組みをしている。



1 まとめる
みんなでがくしゅうもんだい
つくれた学習問題
けいさつしょや地いきの人々は、どのようにして事故や事件からまちを守っているのだろう。

キーワード
● 110番のつうほう
● 法やきまり
● 子ども110番の家

2 事故や事件から町を守るはたらき
まゆさんたちは、学習問題をふり返り、事故や事件からまちを守るはたらきについて、かんけい図にまとめることにしました。

4
1日24時間、事故や事件にそなえていて、けいさつしょの仕事は、消防しよの仕事と同じだね。

4
パトロールや見守りなど、地いきの人々も、協力して、事件や事故が起きるのをふせいでいたね。

4 キャラクターの発言の活用

まとめは学習の振り返りです。何に視点を当てて振り返るとまとめになるか、キャラクターの発言を活用して子供たちに重要ポイントを再確認させながら、まとめにつなげていきましょう。

※ 数字は、内容を活用していく順番(指導の流れ)の例を示しています。



5 選択・判断
まゆさんたちは、事故や事件が起こりやすい場所や、安全のためのしせつの場所などを調べて、地いきの安全マップをつくりました。そして、自分の身の安全を守るために、また、まちの安全のためにできることを話し合いました。

6
外から中が見えにくい場所は、事件が起きやすいので、注意しないといけなわね。

6
自転車に乗るときは、かならずヘルメットをかぶり、交差点では一時はししないといけなわね。

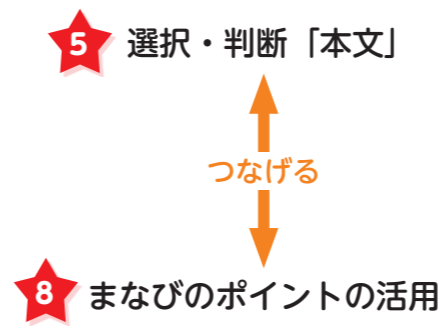
6
夕方から夜の時間は、事故が起きやすいので、交差点では気をつけないとね。

8 まなびのポイント
安全マップをつくる

- ① 地いきのきけんな場所を、調べる。
- ② 地いきの安全のためのしせつなどを、調べる。
- ③ それぞれの場所をかき入れた地図をつくる。
- ④ 気づいたことをカードに書いてはる。

9
登下校のとき、どんな法やきまりがかかっているのかも、たしかめておこう。

※まとめとしての「安全マップ」作成のポイント



5 選択・判断【本文】

安全マップを作成するだけでなく、これを基に、自分ができることや気を付けたいことを振り返る手助けとします。

6 キャラクターの発言の活用

示された安全マップは、「別の地域の例」ということを強調して、キャラクターの発言から、安全確認する際のキーワードを再確認し、改めて子供たちが生活する地域の「安全確認」を継続する意識を育ててみましょう。

7 「安全マップ」の活用

今までの学習を踏まえながら、子供たちがよりよい生活をするために実行できそうなことや提案できそうなことをすることを明らかにする場合があります。

「安全マップ」を作成しながら、改めて自分たちが、事故や事件から自分たちが気を付けるべきことを明らかにすることができます。

8 まなびのポイントの活用

安全マップが一層効果的な作品となるように、具体的な作成の仕方が示されています。ガイドとして使います。

9 キャラクターの発言の活用

改めて、子供たちが生活する地域の「安全確認」を継続する意識を確認しましょう。